

# 町長

## ひとりごと

(48)

齊藤 讓

平成三年の年明けである。正月を迎える心は、歳幾つになっても清々しく心弾むものだ。時の流れは、昨日と寸分違わぬはずなのに、何是か元日の朝は、新しい時の息吹を感ずるから不思議だ。

それはきつと、大晦日には家の内外を整え清めて、心靜かに明日の元日を「迎える心」で待つからこそ生まれてくる意識なのである。だから、「盆も正月も無い」といっ

「盆も正月も無い」といっど我れを忘れて年中忙しく動きまわっている者や、日々の生活に張りやなくしていたずらに時を費している者には、なかなかこんな境地は得難いのではないだろうか。

▼竹のしなやかさと強さは、あの一つ一つの節から生まれている。人間の一生も、この竹と同じように一年一年と歳を積み重ねるうちに節が一つ、二つと出来て成長していくのである。だから私は、大晦日は今年一年をかけてつくつて

ば元のきれいな姿に戻すことはできる。

しかし問題は、目には見えない私達自身の心の様子である。時の流れは、人々の心の中にもゴミと同じように、一年の間に雑多なものを押し流していったに相違ない。悲しいかな私達は、見えないが故に、それに気づかないでいる。

そこで、日常生活の中にあっても、情性に流されることなく日々新たな気持ちで周囲を整え、自らを省みること

### 心を洗う

▼歳の暮には、どこの家でも大掃除をする。毎日欠かさずとなく掃除をしているはずなのに、意外なほどに雑多なものやゴミが多いのに驚かされる。これこそが、不断私達が無意識の中でやり過している時の流れが、一年間をかけて吹き溜めていったものなのである。間断なく流れる時の重さと、大きさを改めて痛感する。誰れでも、常に清潔な環境の中で暮れたいと思っ

▼ところで話は変わるが、私にとつて昨年は秋から暮にかけて、例年になく県外に歩く機会が多かった。飛行機に乗っても列車に乗っても、今の嫌煙ムードで、やたらと禁煙席や禁煙タイムの表示が目につく。愛煙家にとつては、まことに肩身の狭い思いである。実は私も愛煙家の一人であり、家族や周囲の方々からも節煙、禁煙を常に勧められているのであるが、なかなか実行することが出来ないで、意志薄弱だと責られている。

ある視察の折、新幹線を降りて、乗り継ぎのため近鉄名古屋駅の構内に入ったときのことである。列車の発車までよほどの間があり、荷物をホームのベンチに置き、やれ、ほっと一息ついて、徐ろに服吸おうとしたところ、何と構内は総て禁煙だと目の前の柱に大きな張紙がしてあるではないか。そしてよく見るとタバコは喫煙ボックスで書いてある。禁じられれば、尚更に吸いたくなるのが愛煙家の心情である。喫煙ボックスとやらを、あちこち捜し求めてやっとそれを見つけたのは、広い構内の隅も隅、六、七人が入れれば満員となる小さな囲であった。中に隙間を見つけてもぐり込むと、タバコの煙がもうもうと充滿する中で、五、六人の男がまるで陶醉した阿片患者のようにやたらと煙をはき出してた。二本、三本とたて続けに吸う者、あわただしく入ってくるなり火を点け、ほっと一服する者などその光景は一種異様であった。へビースモーカーの私ではあるが一本吸ってそこそこ飛び出した。

▼さて、私が言いたいのは、愛煙家の中には吸殻を辺りかまわず投げ捨てる不心得者がいることだ。スポーツや食事にもマナーがあるように、タバコを吸うのにも当然マナーがあるはずである。これを無視する者がいるから、愛煙家はますます世間から追いやられるのである。

吸殻や空缶を野外に投げ捨てるのは、自分の心の中に投げ捨てて自らの手で己の心を汚しているのと同じことである。それは、心貧しい人である。

小さなことに心配りの出来ない者は、大事を為し得ない。